

Title	門松と松門の補遺
Sub Title	
Author	中島, 竊(Nakajima, Sho)
Publisher	三田史学会
Publication year	1928
Jtitle	史学 Vol.7, No.3 (1928. 11) ,p.104(416)- 104(416)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19281100-0104">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19281100-0104</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 門 松 と 松 門 の 補 遺

余前々號に門松を論して、松柏の墓木なる事を證明せり。當時未だ周禮を檢せざりしが、此程之を閱するに、其家人職に、以爵等爲丘封之度與其樹數とありて、其買公彦が疏に、案春秋緯云、天子墳高三仞、樹以松、諸侯半之、樹以柏、大夫八尺、樹以藥草、士四尺、樹以槐、庶人無墳、樹以楊柳とあり。さては又少異にて、天子は松、諸侯は柏となれり。又白虎通にも、春秋含文嘉を引きて、其說全く此に同じ。唯大夫に樹以藥に作れり。此は藥に作れるが眞にて、說文木の部藥の下に、禮、天子樹松、諸侯柏、大夫藥、士楊とあり。許慎が禮と云へるは、禮緯の說にて、禮緯含文嘉なり。白虎通に春秋含文嘉と云へるは、春秋緯と禮緯含文嘉とを略言せるなり。されば此は緯書の說と見えたり。いづれ當れりといふ事は、言はれれど、其松柏を墓木とする事は一なり。又說文楷の字の下に云く、楷木也、孔子冢蓋樹之者と見ゆ。此は珍らしき木の名なり、他に見し事無し、此も誰やらんが其國の木なりとて、持ち寄りし一樹なるべし。楷は模楷法式に用ゐる字なり。孔子冢上の樹としては、ふさはしき名の木なり、或は孔子冢上の樹として、魯人其原名を知らず、大成至聖の墓木なればとて、模楷の義を用ゐて、之に名づけしには非るか。面白き名の木なれば、事の序に、此處に一寸驚かし置く。